

『高町なのはが天国へ行く方法を記したノートを持っていたら』予告
編

パトラック

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

いつ投稿出来るかわからないので、先にこんな感じの短編を投稿します。やってみたくなっただけです。後悔はしていません。本編内で出さないセリフがあるかもです。

目次

『高町なのはが天国へ行く方法を記した ノートを持っていたら』予告編	1
--------------------------------------	---

『高町なのはが天国へ行く方法を記したノートを持って いたら』予告編

それは一冊のノートだった。

少し汚れてはいたが、使う事に問題は無いようなノートだった。

家には私以外誰もいなくて、寂しさを紛らわせようと思って家の中を見て回った時に、物置から見つけたのだ。

私はこれを日記帳か何かに活用しようと考えた。

そうすれば少しは時間を潰す事が出来るかもしれないからだ。

だが、私は思った。

もしかしたら、誰かが使った物かもしれない、と。

気になったのでノートを開いてみると、文字が書かれていた。日本語では無いよう
だ。

ふと、これを読んでみたいという気持ち湧き上がってきた。

人の物を勝手に読むではいけないんじゃないか、と思ったが、ちよつと位は良いだろうという誘惑に負けて、部屋に持って帰って読むことにした。辞書は使おう。

そして私は部屋に戻った。

これが、私————高町なのはの人生を変える出来事の始まりだった。

彼女は、数年後再び劇的な出会いをする。

それが、高町なのはの長い物語の始まりとなるのだった。

異世界の技術、『魔法』……。

「す、凄い………何て魔力量だ……」

「これは……………『馴染む』……………とても『馴染む』ツ!!」

魔導師である少女との戦い……………。

「あなたの目的は何なの？」

「……………言う必要は無い」

狂気に侵された魔女——。

「過去っていうのは人を雁字搦めにする……あなたがまさにそうだよ、プレシアさん」

「……………そうね。本当にその通り。だからと言って、私はここで終わるつもりなど無いわ!!!」

己の主の為に奔走する騎士——。

「グラーフアイゼン……ハンマーか……だけど、ブンブン振るならッ!!この私の前で！白旗でも振っている方が似合っているよッ!!」

「て、てんめええええええええええ!!!」

呪われし書の管理者——。

「止めるッ!!絶対に止めてみせるッ!!行くぞッ!リンカーコアの魔力を全開だッ!!」

「やってみろ。幼き魔導師よ……!!」

宿命を背負わされた少女——。

「……………マママママ」

始まる……かも？